



福島市小中学校PTA連合会

福島市連P会報

ゆきうさぎ

Vol. 79
2020. 2. 25

(発行) 福島市小中学校PTA連合会
会長 野田 誠

(編集) 広報委員会
委員長 梅津 一匡

(印刷) 株式会社クサカ印刷所
福島市東浜町7-35

次年度から全面実施となる新学習指導要領では、将来必要となる資質・能力として、いわゆる非認知能力(学びに向かう力、人間性等)に着目しています。これは数値化することが困難な力、例えばコミュニケーション力、共感力、忍耐力、自己肯定感などがあげられます。四月に実施したふくしま学力調査「児童生徒質問紙調査」の中に、⑪自分には、よいところがあると思いますか、⑫難しい



福島市小中学校長会協議会 会長 菅原 克章 (福島第二中)

自己肯定感を育む

ことでも失敗をおそれないで挑戦していますか、⑯学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか、という設問があります。これらはいわゆる「自己肯定感」に関係する設問です。人と比べて優れているかどうかでなく、そのままの自分を認め、自分は大切な存在だ、自分にはかけがえのない存在だと思える感覚、それが自己肯定感です。この感覚をもてると、他者や周りのことも尊重でき、他者からも尊重され、お互いに尊重し合える関係がつけられます。自



己肯定感とは、子どもの現在と将来にわたる生活や学びの基盤になるものであると言えます。子どもがやがて成長した時、幸せな人生を手に入れられる、自分は自分でよかった、生まれてきてよかったと感じられる。それは、すべての親の願いです。その実現には、関わる人たちの自己肯定感が大きく影響します。関わるのは、家庭、学校、地域です。子どもたちの自己肯定感を育むことは、私たち大人の責務であると考えます。



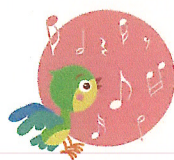
福島市小中学校PTA連合会 会長 野田 誠 (信陵中)

より真剣に考え取り組む

日頃よりPTA活動を通じ子どもたちの健やかな成長や教育環境の充実にあたりご尽力を頂き、心から感謝を申し上げます。近年、環境がめまぐるしく変化し、子どもたちが事件・事故に巻き込まれ、その尊い命が奪われてしまうという報道を目にする事が多く感じられます。その中大きな例がSNS上のトラブルではないでしょうか。見知らぬ人と会い、結果被害者

となってしまう等、私たち親が予期せぬところで被害が起きるという恐ろしいこの社会は、私たち子どもの頃とは違う社会です。ほかにも、子どもたちの人間関係問題、生活習慣問題など向き合うべき課題が多く存在します。今のこの複雑で急速な発展を遂げる社会で、子どもたちを守るためには、より真剣に考え取り組みなければなりません。その為、PTAにおいては専門の先生を招き、研修会等を開催しております。いち保護者として、多くの事を学ぶ貴重な機会

会となっており、また、PTA活動の大きな課題に、保護者様はもとより、先生方の多忙化への対応もあります。保護者さんや先生方には、大きな負担をかけてしまっているのが現状です。少しでも負担軽減し、よりスマートな運営を心掛けていくため試行錯誤しております。その後、皆様の協力をお願い申し上げます。



最優秀賞を受賞して
清明小学校 広報委員長 尾形 里英
学校の特色を生かす、広報委員みんなでアイデアを出し合い話し合っ広報紙を作成しています。笑顔の写真を撮るのが苦労しましたが、皆様の協力のおかげで最優秀賞を受賞できました。ありがとうございました。



令和元年度 福島市連P広報紙 最優秀校は
小学校の部 清明 中学校・特別支援学校の部 飯野
(優秀校) 小学校の部 福島第二小、森合小、渡利小、瀬上小、立子山小、松川小、下川崎小、庭塚小、大久保小、福島大学附属小、福島第四中、清水中、信陵中、西信小、大島小

福島市小中学校PTA連合会 広報担当者研修会



中学校・特別支援学校の部

福島市小中学校PTA連合会 広報担当者研修会



小学校の部

財政委員会

委員長 鈴木圭市
(清水小)

今年度の活動をふりかえって

市PTA連合会規約の事業の項目には「教育の正常な進展に関する世論の形成」「教育委員会ならびに関係諸機関への建議」という文言があります。その一環として財政委員会では、全小中学校に「令和二年度教育予算に関する要望アンケート」を行い、それを集約して市の教育予算確保の要望をまとめました。

十一月七日には、その要望書を持参し、野田連合会長はじめ七名で福島市教育委員会並びに議会事務局に届け、意見交換を行ってまいりました。その中では、校舎の耐震化、施設整備、安全対策、台風被災世帯への学用品支給等が話題となりました。

古閑教育長からは、要望書に対して教育現場からの貴重な声として真摯に受け止め、学校教育の充実に努めていくとともに、今後もPTA連合会の皆様のご理解とご協力をお願いしたいとご回答をいただきました。



財政委員会の会議では、少

くこの大切さを感じました。これからの時代の変化を見極めながら、福島市の児童生徒の健全な成長につながる活動を継続してほしいです。



教養委員会

委員長 佐々木規友
(金谷川小)

笑顔あふれる充実した時間

本年度教養委員会では、第六十二回福島市小中学校PTA研究大会を十月十一日(金)に、とうほう・みんなの文化センター小ホールにおいて、関係各位並びに会員の皆様のご協力の下、盛大に開催致しました。

大会では主題を「多様性を受け入れ未来社会をいかに生きる力」を育むPTA活動」とし、「キラキラの子どもの育てるために」をテーマに映画「キラキラこと」を「学年じりのギャルが一年で偏差値を四十上げて慶応大学

厚生委員会

委員長 柳沼公貴
(飯坂小)

ソフトバレーの二つの大会から

「大変だね。頑張ってるね。」まず厚生委員会の委員長校になった時にかけていた、たく第一声がこの言葉でした。

厚生委員会の主な行事としては二つ。六月下旬に開催される市小中学校PTA連合会親善ソフトボール大会と十一月月上旬に開催される福島市家庭バレーボール大会です。

先日終了した福島市家庭バレーボール大会は、家庭婦人バレーボール協会がメインで段取りをしていた。その中で、駐車場係が主な仕事の厚生委員会はそれほど負担には感じませんでした。試合を見る機会もありましたが白熱した試合が続くプレーしているお母さん達はとてもキラキラ



していました。親善ソフトボール大会は、担当が決まってから引き継ぎも盛ならないうちに抽選会の段取り、大会に向けてのグラウンドや審判の手配など大変ではありましたが、すでに厚生委員会を経験されているメンバーに支えられながら何とか段取りを終えることができました。



ました。親善ではありますが、真剣勝負を子どもたちに見てもらえる機会があるということは素晴らしいことだと思います。主なもの、次年度もスムーズに運営ができるようマニユアルの整備をしていきたいと思っています。

健全育成委員会

委員長 鈴木好則
(庭坂小)

台風接近で協議会中止の中で

今年度の健全育成委員会研究協議会は、台風十五号の接近に伴う、市内小・中学校の休校決定をうけ、中止することになりました。

今回予定していた、田部井進也さんによる「遊びが学びの遊び場はいつも地球」と題した講演会では、七月に行われた「東北の高校生の富士登山2019」の未公開動画も準備していただいております。地球に関するお話はもちろん、地球という大きな遊び場の中で、自然や人々との出会い、学び、成長してゆく子どもの生き生きとした姿など、日頃から野外教育活動を通して、子どもたちと真剣に向き合われているお立場から、様々なお話が聞けることと楽しみにしていましたので、中止決定は非常に残念でした。

ただ、講演会こそ実現できませんでしたが、田部井さんからいただいた、「遊び・学



び・地球」という言葉の持つ意味や、打合せでのお話からは、未来に向かい一歩踏み出そうとしている福島の子どもたちを後押ししてくれる、暖かな想いを受け取ることができました。

今後も、そんな想いと一緒に、子どもたちの健やかな成長を見守り、寄り添って行

ればと思っています。

最後になりましたが、この場をお借りして、協議会へ参加を予定されていた会員の皆様にお詫び申し上げると共に、直前まで開催準備にご協力いただいた全ての皆様にお礼申し上げます。ありがとうございます。

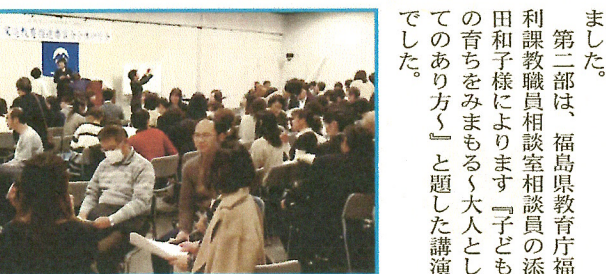
家庭教育推進委員会

家庭・学校・地域・社会への広がり

委員長 一戸 里美
(清明小)

本年度の家庭教育推進委員会全体研修会は十二月七日、コラッセふくしまにおいてPTA会員約二百名にご参加いただき開催しました。

第一部は、株式会社フレックス常務取締役兼B.L.Tカフェ現場統括 吉成洋拍様による「障がいってなに？障がい者雇用をして感じたこ



また。第二部は、福島県教育庁福

講演の中では参加者のグループ懇談も行われました。添田様からは「子どもは可能性の塊である。」「子どもはその子だけのその子らしさがある。」「人間は時々ダウンすることもあるが、フランクがあつても必ずよみがえることができる。」「等のメッセージをいただき励まされた思いがしました。

今回の二つの講演内容が家庭や学校全体から地域、社会へと広がっていくことで、よりよい教育・子育て環境へとつながっていくのではないかと思います。



進路対策委員会

進路対策委員会の活動について

委員長 梅津 庄司
(野田中)

進路対策委員会は、各中学校における進路指導が効果的に行われるよう県北地区私立高校への要望活動など具体的な対策を立て活動をしてい

また、六月十日の福島地区進路対策委員会総会において、本年度の活動に関して話



校が連携し進路対策を行って

広報委員会

紙面の先を想像して作成

委員長 梅津 一匡
(三河台小)



講師 福島民報社 石井 賢二 様

本委員会は、各校での広報紙作成の技術向上等を目的とし、年二回の研修会・広報紙コンクールを開催。また年一回、市連P会報を発行して

ります。第一回研修会は、福島民報社編集局整理部より石井賢二様をお迎えし「読みやすい広報紙作り」新聞製作の視点から」と題し、学校の特色を生かし、読者の目線で見出しの付け方など、より良い広報紙づくりに必要なテクニックをこ

らご応募があり、福島民報社様のご協力のもと、審査を行いました。審査の結果、最優秀賞に小学校の部は清明小学校、中学校の部は飯野中学校が受賞されました。また、優秀校は小学校十校、中学校五校が受賞し、各校とも創意工夫された紙面構成で、今後の作成に大変参考となるとともに、行事などの記事を通じ、各家庭で子どもたちと話が咲く姿が浮かぶ素晴らしい力作ばかりでした。



広報委員会の皆様にご感謝申し上げますとともに、今後も素晴らしい広報紙が作成され、各ご家庭や地域でのコミュニケーションの一助となります事を心より願っております。

今年度は十月二十日(日)に予定されておりました第六十七回福島県PTA研究大会南相馬大会が台風の影響により中止になりました。

